

地域懇談会における主な意見・提言

1 開催の概要

広域圏名	開催日	開催場所	参加人数	出席委員
佐 久	7月13日(金)	佐久広域連合	25名	高野 登 委員
上 小	7月17日(火)	上田合同庁舎	21名	高野和也 委員
諏 訪	7月17日(火)	諏訪合同庁舎	18名	駒谷嘉宏 委員
上伊那	7月24日(火)	上伊那合同庁舎	16名	井上弘司 委員
下伊那	7月31日(火)	飯田消費生活センター	26名	久保田くに子 委員
木 曽	7月24日(火)	木曽合同庁舎	17名	井上弘司 委員
松 本	7月27日(金)	松本合同庁舎	21名	中川完治 委員
				松本 猛 委員
北安曇	7月26日(木)	大町合同庁舎	15名	佐藤博康 会長
				塩島和子 委員
長 野	7月 9日(月)	長野合同庁舎	22名	今井明美 委員
北 信	7月18日(水)	北信合同庁舎	22名	今井明美 委員

※参加者は観光事業者、交通事業者、経済団体、市町村等203名(県職員を除く。)

※ワールド・カフェ方式により開催

2 主な意見

(新たな観光振興基本計画の基本的な考え方～中間とりまとめ(案)～ 第4編施策展開に基づき分類)

- ・観光地域づくり P 2～5
- ・観光の高付加価値化 P 6～9
- ・おもてなしの推進 P 10～12
- ・観光の基盤づくり P 13～15
- ・国内外からの誘客・交流の促進 P 16～18
- ・計画の推進のために P 19～20

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
人材の育成	・地域にこだわりのプロフェッショナルを育成し、注目されるようなプロデュースを県が行う。	佐久
	・外部からの仕掛け人や内部での案内人を育てていく必要がある。	佐久
	・人づくり、分野のエキスパート養成（どこにいるかデータベース化）	佐久
	・誇りをもって財産を残す（人・歴史・文化等）	佐久
	・専門知識のある人を配置し、どの自治体や観光案内所に問い合わせても答えられるような体制づくり	佐久
	・広域観光に対応した観光ガイドの育成。知的好奇心をくすぐるストーリー性のある観光ガイド	上小
	・地域の観光におけるリーダーとなる人材育成。官民一体となり、カリスマ的人材の育成が必要	諏訪
	・観光総合ガイドや農家民泊などの担い手の養成	上伊那
	・広域コンシェルジュ機能	上伊那
	・ネットワークを可能にするプロデューサーの育成	上伊那
	・そこに住む地域の方に近隣の美味しいものや観光のポイントを知ってもらい、住民が「案内人」となる。	下伊那
	・地域を語れる人づくり。観光案内人の養成。	下伊那
	・地域を案内できる人材の育成、組織づくりが必要である。	下伊那
	・人的ガイド南信州案内人の育成	下伊那
	・地元の案内には長けているが、他地域・木曽路全体の案内ができる人、コーディネートできる人がいないので、連携・情報交換しながら養成を図る。	木曽
	・地域ガイドの人材育成には、地域を学ぶ観点、教育が必要	木曽
	・地域の魅力をPRできる人を育て、滞在して心地よい環境をつくることを目指す。	木曽
	・地域を引っ張っていくリーダーの育成を組織化、総合コーディネーターの設置。	大北
観光地域づくりプラットフォームの構築	・体験型メニューなど、小グループ化への対応が必要	佐久
	・地域が潤う工夫の検討 各地の取組を紹介する事例集の発行、講座の開講	上小
	・首都圏に近い立地を活かした観光商品の再構築 学習旅行、合宿、ワイン等地域の強みを活かした誘客。 農村農業体験等を中心とした着地型商品の提供	上小
	・観光旅行者が自ら動線をプランニングできるツールの構築	上小
	・泊食分離の促進。「上諏訪街道呑みあるき」や「ソトノミー」など、既存の良い取組を活用し、空室の利用を促進	諏訪
	・体験観光や産業観光の受入態勢の整備	上伊那

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光地域づくりプラットフォームの構築	・通過点とせず、域内で宿泊する仕組みを。	上伊那
	・道の駅を増やしたり、大型化し、特産品の販売拠点、食事提供の拠点として大型観光バスを受け入れる。	上伊那
	・南信州のよさ、観光資源を線で結ぶ。（総合窓口、案内機能）	下伊那
	・小さな観光資源の掘り起こしと結び付けにより、小規模団体の旅行者をリピーターと呼べる観光地作りが必要。	下伊那
	・南信州の、「点」の状態である多くの素晴らしい観光資源（うもれている）を、明確に「面」として表面化させる必要がある。観光資源（歴史、文化、アクティビティ）に行政として資金を投入し、温泉施設等の宿泊施設を中心とした滞在型の観光を作るべき。	下伊那
	・個々の観光資源には優れた物があり、連携、パッケージングの取組が必要。（観光ルートのテーマ別のメニュー、回遊メニュー等）	下伊那
	・地域の魅力を洗い出しその魅力を線でつなげることにより、南信州の大きな売りとしていく。	下伊那
	・下伊那周遊ツアーとなる「おすすめコース」（点を結ぶような）を作る。	下伊那
	・体験を組み込んだパッケージ作りをする。メニューはいくつも作り分散型に。	下伊那
	・地域の魅力を伝えられる体験等の滞在メニューの工夫	下伊那
	・街道めぐりを位置づける。（自然に触れる・健康づくり・温泉に入る・人に触れる・安全で美味しい食を、特産品にありつける・伝統文化を堪能できる・歴史に触れる等）	下伊那
	・地元の話題をストーリー化しドラマ作り。それをメディアへ売り全国にPR。（跡取りの話題等）	下伊那
	・今あるよい素材（自然、農業、星空など）を活かして、点→線→面へとつなげていく。	下伊那
	・観光資源が点在しているため、既存資源の結びつけが必要	下伊那
	・体験を求める人が多い。見るだけの観光では集客、リピーターの確保は難しい。	下伊那
	・景気が悪いので「お笑い」と「舟」「宿」で人を寄せつける。	下伊那
	・各地区での観光資源の発掘	下伊那
	・大鹿歌舞伎で盛り上がったが、受入態勢がないため長続きしない。	下伊那
	・ある商品を組み合わせ、その手配ができる組織をつくる。	木曽
	・域内の宿泊施設の連携によるネットワークづくりを図る。	木曽
	・わかりやすい観光地（乗り換え案内など）、来やすい観光地（フリーパスなど）、移動しやすい観光地（レンタサイクル、サイクルトレインなど）やさしい観光地（地域住民全員がガイド＝人づくり）	大北
	・地域住民と一体となった観光地づくりをすること。	大北

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光地域づくりプラットフォームの構築	・ 基点となる観光センターの設立	長野
	・ 観光拠点の設定とそこからの観光ルートの提案	長野
	・ 地域の連携によるワンストップサービスの充実	長野
地域が一体となった連携・協働による観光地域づくり	・ 軽井沢と佐久広域との連携（軽井沢にないものをPRして相乗効果を狙う）	佐久
	・ 軽井沢を核とした広域連携、観光地づくり、軽井沢を含めた圏域からの誘客が重要	佐久
	・ 長期滞在プログラムの開発（修学旅行、ホテル・旅館と連携したグリーンツーリズム、節電宿泊）	佐久
	・ 軽井沢又は清里を核とした観光地づくりにならざるを得ないが、他にない魅力を知っていただき、軽井沢等から足を延ばしてもらうか、アイデアを出	佐久
	・ 南佐久の高原野菜を利用したメニューを軽井沢のホテルで提供してもらうなど、地域の差を有効活用する。	佐久
	・ 小さいところは小さいなりに、あるものを見直し使う工夫。アイデアと広報による商品化	佐久
	・ 市町村の境界を越えた共存共栄の地域づくり 観光業者間の連携 異業種、住民も含めた意見交換のできるプラットフォームの構築	上小
	・ 他地域からの観光客の呼び込み対策 365日お客様を呼べる観光商品づくり 観光客のニーズ変化に対応した観光スタイルの提案 観光地の情報交換による相互寄与 キーワード「素通りできない雰囲気づくり」	上小
	・ 新しい観光ルートづくりが必要。また、交通機関の乗り放題企画や宿泊客向けのオプションツアーをタイムリーに提供できる体制が必要	諏訪
	・ 個性ある信州づくり（地域づくり）	上伊那
	・ 地域の日常生活を観光資源に	上伊那
	・ 広域的に考えることが大切だが、地元の紹介できる自慢のものを確認することが第1歩である。	下伊那
	・ 南アルプス、中央アルプス、天竜川等自然を活かす観光と南信しかない観光作り。	下伊那
	・ 自然・文化・伝統・暮らし・農業・景観を資源とすることはもちろん、そこに暮らす人々との関係で、人も資源も輝く姿を見せたい。	下伊那
	・ 地域の埋もれた観光資源を活用し、地域間の連携を取った観光地づくりを行う。	木曽
	・ 訪れる人が住んでみたい地域づくり	松本
	・ 住む人が誇りが持てる、好きになれる地域づくり	松本
	・ お客様に喜ばれることを第一に、自分たちのスキルを磨くことにつきる。そういう取り組みをしている団体等に予算を付ける。	大北
	・ リピーターを増やす施策の展開。ブランド力を高めるための、地域で連携した取組	大北

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
地域が一体となった連携・協働による観光地域づくり	・地域での意識統一が必要。ネーミングの統一。付加価値がつくような商品、場所づくり。	大北
	・行政の区割りではなく、地域全体として売り込む商品、方法、イベントの開発	大北
	・行政区域でなく広域（100km圏）で施設、店舗を紹介し合える程度の連携が取れる地域を目指したい。	大北
	・ミシュランの星が取れるような観光地づくりを目指す。	長野
	・他地域と競合しないものを探して、テーマツーリズムにより売り込んでいく。	北信
	・素材は豊富に持っているが、それをエリア全体で地域資源、観光資源として活用することが必要である。	北信
	・北信地域で言えば「日本の田舎・原風景」といったように、それぞれの地域には、残さなければならないもの、大切にしなければならないものがあるはずで、それを売りにした観光振興を図る。	北信
	・他の地域にないものにこだわって客をひきつける。	北信

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
信州ブランドの再構築と統一感のある発信、資源の発掘と磨き上げの仕組みづくり	・観光資源は固定化したものではない。時代によって常に新しい資源が必要になる。	佐久
	・新たな観光資源（健康・スポーツ・食・自然・エコ・歴史等）の創出と魅力ある観光イベントの展開が必要	佐久
	・物語性のある観光地づくり、地域づくり	佐久
	・まず、素晴らしい素材があることを見直す。素材と素材のコラボから新しい価値を生み出し、どのようにアピールできるかを設計し、効果を測定することが必要	佐久
	・新たなブランドイメージづくり（史跡・スイーツ・高原野菜・空き家）	佐久
	・魅力ある商品開発（食・歴史・自然）、地域素材の活用	佐久
	・核となるテーマを絞り込み、物語性を持たせて品質を高め、訪れた人に核となるブランドを意識して帰ってもらうことが大事（良い印象の植え付け）	佐久
	・軽井沢という資源を上手に活用するだけでなく、「個」としての独自性を発揮することが必要	佐久
	・歴史資源の十分な活用 真田氏に特化したまちづくり。大河ドラマ等の誘致	上小
	・先進事例を学び、取り入れることで新たな観光コンテンツの創造と既存のコンテンツのブラッシュアップを図る。	諏訪
	・民力を主体としながら、面として外部へ情報を発信していくことが必要。そのために、県でベースとなるものを決定し、信州ブランドの構築につなげ	諏訪
	・ブランドの確立とリピータの獲得	上伊那
	・今ある資源を活かし、信州らしさ、地域らしさを味わってもらえる観光、地域づくり（歴史、景観、食、人）	上伊那
	・信州らしさの洗い出し	上伊那
	・地域を売り込むためのイメージ作りが必要（キャッチフレーズ）	下伊那
	・各市町村にブランド力のある素材が多くあるが、これらに統一性がない。 ①物理的な統一（交通網等インフラ） ②ソフトの統一 ③人的な統一（行政間の連携、“南信州案内人”という地域共有ガイドの育成）	下伊那
	・各地域で商品は造成され、食についても各市町村でブランド力のある素材が多くあるが、これらに統一性がないのが課題	下伊那
	・自然・食・伝統文化・人をテーマに地域としてのイメージを高める戦略が必要	下伊那
	・南信州のイメージ作りが必要（例：南信州のさわやか涼景、南信州の北〇〇〇（北は旅情をさそう）	下伊那
	・また来たいと思う観光地（地域）となるような南信州ファン作りが必要	下伊那
	・長野県のイメージは北に片寄りすぎ。バランスある行政を。	下伊那
	・アルプスをテーマにした山岳観光（新しい形）の開発。山岳リゾートを明確に。	下伊那

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
信州ブランドの再構築と統一感のある発信、資源の発掘と磨き上げの仕組みづくり	・観光ポイントをピックアップし、つなげる事により新しい魅力が生まれる。人が楽しくなるような仕掛けも必要	下伊那
	・木曽に興味を示してもらえるような地域ブランドを確立する。	木曽
	・山の魅力が都会の人にとっては楽しくあり、癒しになり、神秘的に思えるので、アピールしていく。	木曽
	・山の活用を図り、ただ山を見てもらうだけでなく、自然学校のようなものを作って学んでもらう。	木曽
	・グリーンシーズンも含め、スキーだけではなくスキー場の活用を考える。	木曽
	・信州の生き方そのものをブランド化へ推進	松本
	・「しあわせ」を探しにきてもらえる仕組みづくり	松本
	・山岳県のイメージを大きく打ち出す。	大北
	・「大北」ではなく「北アルプス」をイメージした名称の変更。	大北
	・「北アルプス」はこういう所。この食べ物、この土産。	大北
	・長野県の特徴、イメージを絶えず発信する。	大北
	・農、村、魚と観光関係者が一体となって地域ブランドを創り上げること。	大北
	・地域資源にストーリーをつくる（男水、女水）。	大北
	・「大町市」は他県では通用しない。ぜひ北アルプス市と名称を変えることも考えて欲しい。	大北
	・地域に今あるものを掘り下げ、磨きをかけ、資源に変えていく。	長野
他分野と連携したニューツーリズムの推進	・観光資源と地域の産業を結びつけた観光商品の提供 農業＋温泉、商業＋温泉、歴史資源＋農業などの提携商品の提供	上小
	・首都圏に近い立地を活かした観光商品の再構築 学習旅行、合宿、ワイン等地域の強みを活かした誘客。 農村農業体験等を中心とした着地型商品の提供	上小
	・スポーツ観光、産業観光（シルク、寒天等の伝統工芸、農業体験含む）などをストーリーを持って紹介する、ニューツーリズムの発信	諏訪
	・健康長寿、エコ、バリアフリー、カヌー、カヤック等のマリンスポーツ、自転車等のPRを進めてはどうか。	諏訪
	・教育分野を巻き込んで、文化財、スポーツ等から観光振興を（大会の誘致などによる都市との交流）。	上伊那

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
他分野と連携したニューツーリズムの推進	・ 農業（収穫体験、生活体験）と産業（産業観光）と連携し、独自性のある体験型観光を目指す。	上伊那
	・ B級グルメ、健康志向を踏まえた食事や、質のよい農産物など、地域の食文化を有効活用する。	上伊那
	・ 異業種連携による面的な回遊（農業（伝統品種）、伝統料理、まちなみ、伝統産業、自然、里地里山）	上伊那
	・ 癒しの体験ツアーを	上伊那
	・ 教育分野を巻き込んで、文化財、スポーツ等から観光振興を（大会の誘致などによる都市との交流）	上伊那
	・ 教育、まじめ、健康などの長野県の強みを活かすイメージ向上	上伊那
	・ 自然を活かせる観光を（山、川、森）	上伊那
	・ グリーンツーリズム、体験観光はリピーターが生まれ、地域経済へも寄与しているため、グリーンツーリズムの拡大を。	下伊那
	・ 他産業と観光の連携	下伊那
	・ 森林に価値をつける。（いやし力で誘客。産業にも効果大。エコ化）	下伊那
	・ 自然を活かす観光を目指す。（農業体験等と観光を結ぶ、トレッキングコースをつくる 等）	下伊那
	・ 毎月新たなテーマを決め、食・温泉・文化・健康（いやし）体験等を組み合わせたプランを作る。	下伊那
	・ 飯田下伊那地域の人柄、農林業資源をフル活用した体験型観光（着地形観光）を目指す。	下伊那
	・ 地理的条件から、トレッキングが有効である。	下伊那
	・ 南信州トレッキングコースをつくる。	下伊那
	・ 求められている癒やしの商品化	下伊那
	・ 飯田下伊那に存在する資源を線で結びつけるため、既存の街道を活用。今流行のトレッキングと結びつける。	下伊那
	・ 農業、商工業等他産業と連携してもう一度来てもらえるような企画を考える。	木曽
	・ ニーズにあった宿泊施設の整備を図る。既存のグランド、体育館等施設を活用する。	木曽
	・ 環境、農業、健康、教育と観光を連携した魅力の発信	松本
	・ 県がテーマを決めて（例えば「健康づくり長野県」）、健康保険組合等と協議をして誘致する。そのお客を各地区の特徴により分ける。	大北
	・ 他の産業との連携の可能性が大きいことを再認識し、地域資源の発掘を進めるべき	長野
	・ 観光と農林業、あるいは観光と健康を結びつけ、体験型観光や修学旅行への取組、それらを通じていかに年間を通じた長野県全体の観光を表に出せる	北信

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
他分野と連携したニューツーリズムの推進	・ 農業と観光の連携により、この地域にしかないお土産や地場産品を作って行く必要がある。	北信
	・ 他産業と連携したものがある観光地を目指す。	北信
食をはじめとする物産の振興	・ 土産物等地域で提供するものの安心・安全性の確保	上小
	・ 万人受けする味を分析する。	上伊那
	・ 特産品の供給量が足りない。	下伊那
	・ 地域の食の魅力を発信する。	木曽
	・ 食の魅力向上	松本
	・ ジビエの安定供給体制の整備	長野
	・ インパクトのあるものという観点からすると、日本一の食品やオンリーワンのものを加工して売り出す必要がある。	北信

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光に対する県民意識の醸成	・人づくりがおもてなしにつながる。	佐久
	・地域の印象を決めるのは「人」	佐久
	・住んでいる人全員が観光案内、おもてなしができるようになれば最高の観光地になる。	佐久
	・長野県が誇る自然、食、伝統工芸、歴史等観光資源の素晴らしさについて地元住民が知ることが必要	木曽
	・歴史、森林、自然・・・これらについて地域の人々が理解していない、面的広がりが無い。	木曽
	・観光地を知るために、住民が地元の温泉に泊まるなどの体験をすることが重要	諏訪
	・地域の人々の気持ちを盛り上げる。観光に対する意識の向上	上伊那
	・市民参加	上伊那
	・市民が誇りを持てる地域でありたい。	上伊那
	・南信州（または長野県）を人生蘇生の場所として、行政、地域、住民が共通認識を持ち観光客を迎える。	下伊那
	・地域の魅力に地元の人々が気づき、本物のサービス（プログラム等）を提供する。	下伊那
	・住民の観光に対する意識付け。	下伊那
	・多くの人に関わり、ひとつひとつの観光地を魅力あふれるものにしていく。南信州の人は温かいというイメージを売りにしていく。	下伊那
	・下伊那には大きな観光資源がないからこそ、地域やそこに住む人の生活に入り込めるような旅の提案が必要。そこには一目で内容が解り、大いに興味を引くようなキャッチコピーが必要。（例えば“癒やし”）観光に関わる者だけでなく、地域の方も含めた意識の統一が重要。	下伊那
	・観光が経済活動の柱であることを掲げていく。	木曽
	・「おもてなし」について子どもの頃からの教育が必要	木曽
	・商店や住民に至るまで、ホスピタリティを持てるよう観光教育が必要	木曽
	・地域のことを知らない、ホスピタリティが欠けているのは域内交流が不足しているや、ベクトルがあっていないからである。	木曽
	・ホスピタリティ意識の共有を図る。	木曽
	・やさしい観光地（地域住民全員が観光ガイド＝人づくり）	大北
	・住民が自分の地域のことを知ること。住民が地元を知って、観光客のおもてなしをする。	大北
	・自分たちの暮らしなどに自信を持ち、これを売り物としていく。「ここに住んでいて良かった」というような生きがいを感じ、自分達も参加できる観光を目指す。	大北
	・当地域の小中学校で観光の英会話授業を行い、外国人観光客に道案内等ができるようなインフラを整える。	大北

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光に対する県民意識の醸成	・住民参加、住民を巻き込んだ観光振興のシステムづくりをすべき。その場合、参加が住民にとって経済的にもプラスになるという姿を描き、モチベーションを高めてほしい。	長野
	・自分の住む街の良さの再認識、自信を持って伝えられるまちづくり（ここは「観光地」という意識付け）	長野
	・県民一人ひとりが生活し、幸せを感じていることが大切。それが結集することでおもてなしの心が生まれる。	長野
	・子供をターゲットに小さい頃からスキーができるよう環境整備を行う。	北信
	・スキーの振興については、教育環境の充実、特に冬季スポーツについて、教育の中で充実させる。	北信
	・地元の人たちに地域を知ってもらい、情報発信してもらい、郷土愛を育てる。	北信
	・地域全体でおもてなしの心を育成していくような人材育成が必要である。	北信
	・郷土愛という切り口で、自分の地域を好きになったり、誇りを持たなければお客さまは来てくれないし、薦められないという考え方を共有していく。	北信
	・地元の人ばかりでなく、他人の目を意識して商品づくりを行う。地元の人には自分の地域をわかっていない場合がある。	北信
観光に携わる事業者の資質向上	・リピーターにつなげられるようなサービスを実施する。（食事・宿泊・温泉）	下伊那
	・リピーターを増やす視点が大切である。	北信
	・観光は地域全体の施策であるので、そのような機運を地域全体で盛り上げていく。例えば、タクシーの運転手が自分の気に入ったところを案内する、あるいはおいしいところに連れていく、観光客に丁寧に接するなど、好循環に繋がっていく。	北信
県民運動によるおもてなしの実践	・暮らしている人たちが、訪れる人たちを幸せにする、おもてなしのスパイラルを構築することが必要	佐久
	・おもてなし宣言を活用し、地域全体のおもてなしの意識を高揚	上小
	・住民の意識啓発。観光旅行者の視点を大事にし、地域全体での観光客に対するおもてなしの心づくりが必要	諏訪
	・市民のもてなし、ホスピタリティの醸成	上伊那
	・住民参加の地域全体でのおもてなしの運動	松本
	・おもてなしの原点に返ること。	大北
	・信州DCの原点に返ること。「おもてなしの心」	大北
	・四国のお遍路さんの「おせったい」の様なおもてなし。金儲けではないが、地域の活性化につながる。信州スタイルの「おせったい」の構築。	大北
	・観光事業者だけでなく、誰もが訪れる人を温かく迎える住民運動	長野
	・一人ひとりが具体的行動を起こす「信州おもてなし一人一運動」の展開	長野
	・地域版のご当地検定、案内人の養成	長野

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
県民運動によるおもてなしの実践	・ 地域全体で親切な対応でお迎えできる観光地を目指す。	北信

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光事業者の観光魅力や競争力の向上に向けた取組支援	・地元の味など、いいものは多いが、ひとつの店では発信できない場合（高齢化、資金不足等）への行政の支援が必要	佐久
	・都会では味わえないような自然（山・川・農業など）を利用し整備を進め、今後、交通面でアクセスが良くなった時に備えていく。	下伊那
	・地域（観光資源の原石）を磨く所に支援をしていく。	下伊那
	・観光産業の柱である宿泊事業の活性化につながる施策が必要	大北
	・小資本の観光事業者への提案では利益になると思わせる提案が大切	大北
	・観光は地域の雇用などいろいろなところに影響があり、観光振興には地域づくり・人材育成が必要である。また、NP0や大学の人材などいろいろな方々の活用も考える。	北信
	・旅行業法の改正に着目して組織を法人化すれば、より広いエリアの旅行商品を販売できる。	北信
自然環境の保護、観光地の景観形成、快適な交流空間づくり	・観光地の廃屋対策。空き店舗、廃業した宿泊施設等の有効利用又は撤去の検討	諏訪
	・観光客に共通する目的は、南信州で心の静けさを取り戻し、郷愁に浸りたいという思い。（温泉、農業体験、自然 等）	下伊那
	・ゆっくり滞在できる、滞在したい地域を目指す。	木曽
	・まちづくりの活動を基に、観光客にとっても楽しめる場所を作っていく。	木曽
	・若者が定着し、子育てにも良い環境であることを観光客にもアピールしていく。	木曽
	・自然とともに生きる信州観光の構築	松本
高速交通網の充実	・新幹線上田駅を中心とした交通ハブ化の一層の推進 利用者拡大のための計画策定、二次交通の充実・確保	上小
	・新しい観光ルートづくりが必要。また、交通機関の乗り放題企画や宿泊客向けのオプションツアーをタイムリーに提供できる体制が必要	諏訪
	・二次交通の充実を図るべき（行政域を越えたバスや周遊バスの運行。自動車利用でない観光旅行者の交通手段の確保。）	諏訪・長野
	・道路等の整備により静岡等へのプレゼンを。（中京地域もふまえ）	下伊那
	・中部横断自動車道の早期整備、地域高規格道路整備（佐久～松本）	佐久
	・北陸新幹線の金沢延伸や首都圏に近いことを長所として施策に反映すべき。	佐久
	・観光客がストレス無く、観光地を周遊できるような交通体系の整備が必要。	佐久
	・北陸新幹線の金沢延伸で、交通体系のあり方を考え、県新総合ビジョンの検討がされている中、県組織で連携すること。	佐久
	・二次交通、三次交通の創設	上伊那
	・SA・PA、スマートインター、道の駅の活用	上伊那
	・2次交通を整備し、全年齢対応の観光を推進する。	下伊那

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
高速交通網の充実	・ リニア、三遠南信自動車道の開通に伴い、今から考える２次交通の研究	下伊那
	・ ＪＲ飯田線の活用	下伊那
	・ 周遊のための２次交通の確保	下伊那
	・ ２次交通やインフラ整備を積極的に支援する。	下伊那
	・ リニア新幹線、三遠南信自動車道の交通網を見据えた観光戦略の作成	下伊那
	・ リニア、三遠南信道等の開通時に対する対策を早く進めていく。通過点としないために。	下伊那
	・ 高速交通（リニア、三遠南信道）を見すえた新しい形（南信全体の連携）の観光への取り組みが必要	下伊那
	・ 市町村を越えた二次交通の整備	松本
	・ 外国人旅行者に対応した二次交通の整備	松本
	・ 交通事業者の連携強化（エリア内のフリーチケット等）	長野
	・ 二次交通の充実を図るべき（行政域を越えたバスや周遊バスの運行。自動車利用でない観光旅行者の交通手段の確保。）。	諏訪・木曽・長野
	・ 地域の著名人と協働したラッピングバスなどの取組の検討	諏訪
観光地の利便性や快適性の向上	・ インターネットの活用、フェイスブック等による共感の発信	佐久
	・ エリア相互で情報を紹介しあえるような観光情報の共通データベースの構築及び支援	上小
	・ 他地域との差別化を図る情報発信 観光資源のテーマ別の集約・情報提供	上小
	・ 広域パンフレットの作成、うなぎ、そば、文化財などジャンル別マップの作成、公衆無線LANの整備によるタイムリーな情報発信	諏訪
	・ ネットワークを可能にするＩＴ機能の強化	上伊那
	・ 観光地の案内看板をしっかりとるべき。	上伊那
	・ ロケ地情報の発信	上伊那
	・ 伊那路観光連盟、飯田観光協会、上伊那観光連盟が、統一制を持った宣伝をし、どこで受け入れても、南信州のどんな案内でも出来るような組織づくりが大切	下伊那
	・ 南信州広域としてのアクセスポイントについてまとめたパンフレット・地図の作成が必要	下伊那
	・ 県の北と南では観光の内容が違う。そのことを踏まえてＰＲをする。	下伊那

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
観光地の 利便性や 快適性の 向上	・ 上伊那観光連盟、飯田観光協会等がそれぞれ宣伝・受入れをするのではなく、北信濃に対抗できるようなネーミングを考え、南信州が一つにまとまって宣伝を行い、統一制を持って受入れができるようなイメージを作り上げたい。	下伊那
	・ 南信州としてのアピールがまだ足りない。	下伊那
	・ 楽天サイトと「夜の星空」の連携で成功した事例（昼神）について、ノウハウを広めては？	下伊那
	・ 点在する観光資源（素材）を活かすため、点から線、線から面へと互いに連携して情報発信に取り組む必要がある。このときに1つのテーマがあるとよい	下伊那
	・ 情報を総合的に提供し、資源を結ぶ。	下伊那
	・ ネット上で最新情報の提供をする。	木曽
	・ 旅行者サイドに立った、各市町村間の情報の共有化（データベース構築）	松本
	・ 大都市での窓口増設等による情報発信の強化	松本
	・ 単なる観光地ではなく、地域そのもの（風景、生活、食べ物）の情報発信が大切	長野
	・ 観光地のトイレ改修（洋式化、バリアフリー）に対する補助事業の創設	長野
	・ 高齢化から「老齡化」に向けた利便性の向上を。	長野
	・ 情報発信を広域連携で行う。あるいは、他の地域でも情報が発信されている体制づくりを行う。	北信
	・ 広域的な情報発信では、その地域がどこにあるかわかるような共通の範囲・エリアで地図を作るなど、地域全体で観光を考えていく。	北信
	・ これまでは市町村単位や観光地単位で観光PRをしており、そこに壁が存在したが、広域連携が必要である。	北信
	・ 地域資源の掘り起こしや見直し、共有化、そして一元的に情報発信を行っていく。	北信

国内外からの誘客・ 交流の促進

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
国内誘客の推進	・ 玄関から奥座敷までの誘客促進、地域全体での交流、テーマを絞った広告宣伝が必要	佐久
	・ 首都圏に近いことを長所として施策に反映すべき（近いこと＝滞在時間を長くできること）。	佐久
	・ 他地域からの観光客の呼び込み対策 365日お客様を呼べる観光商品づくり 観光客のニーズ変化に対応した観光スタイルの提案 観光地の情報交換による相互寄与 キーワード「素通りできない雰囲気づくり」	上小
	・ 何もしないゆったりしたパワースポットや、セラピーロードへの誘客	上伊那
	・ 歴史を活かし、物語性をもったPRを	上伊那
	・ 全県的に見ても強い観光地（安曇野など）と組んだツアーを売り込む。	上伊那
	・ 中高年層にターゲットを絞る。	下伊那
	・ 地域の観光資源を利用し、通年のプレゼンを作る。	下伊那
	・ ターゲットを中京圏に限定して集中的なキャンペーンの実施	下伊那
	・ 観光客数から観光消費額へ視点を写し、基本消費額の多い客層をターゲットにしていく。	下伊那
	・ 南信州で大きなイベントをして客を呼びたい。（例：山を利用した1週間ぐらいの長いイベント。北海道のYOSAKOIや青森のねぶた祭りのような。）	下伊那
	・ 中京からの玄関口としての南信州のイメージを統一し、メディアを通じてPRしていく。	下伊那
	・ 南信州を県南部の玄関口として位置づける。	下伊那
	・ 遊休農地を利用し、毎年区画分けをして貸し出すことにより、繰り返し訪れてもらう。	下伊那
	・ 南信州には1か所で100万人以上が訪れるような観光地がないため、南アルプス・中央アルプス、2つのアルプスが見える地に核となる観光施設を作りたい。	下伊那
	・ 核（目玉）と格（風格・歴史）を観光資源に	下伊那
	・ 北信に偏りがちな感じがする全体計画の中で、信州のイメージに結び付いていない御嶽山（伊那谷も）も取り上げてほしい。	木曽
	・ 中京圏には知名度があるが関東圏では知られていないので周知PRを図る。	木曽
	・ 木曽路としての統一した観光戦略、プロモーションの実施	木曽
	・ 県外企業等所有の保養所等の施設を生かした観光振興を図る。	木曽
	・ 長野県の入り口である木曽の役割を再度考える。	木曽
	・ ありのままの田舎を活かした観光誘客	松本
	・ 女性の視点を重視した訴求対象の明確化	松本

国内外からの誘客・ 交流の促進

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
国内誘客の推進	・ 更なる山岳観光の推進	松本
	・ 温泉地としての魅力の情報発信	松本
	・ 責任ある「オススメ」の提供	長野
	・ お客様は誰なのかを考える（例えば、段階の世代や高齢者）。	北信
	・ これからは団体旅行より個人旅行が主流になる。	北信
	・ 地元のお客さんも重視する。	北信
	・ 花や歴史等、日本一の商品だというものを探し、テーマツーリズムに入れ込む。	北信
	・ 市町村のPRということではなく、観光客のそれぞれのライフスタイルにあった商品を考える。	北信
	・ 雪が課題である地域は、それを利用・活用していくことが必要である。	北信
	・ 北陸新幹線延伸を考えると新幹線については高齢者がターゲットとなる。若者については旅行手段として車を意識し、道の駅を活用する。	北信
インバウンドの推進	・ 外国人観光客数値の推進、外国人観光客の受入体制の整備	佐久
	・ インバウンド、特に修学旅行の受入れ推進	上伊那
	・ インバウンドを受け入れる体制づくりと宿泊事業者の意識改革を図る。	木曽
	・ 外国人旅行者に対応した二次交通の整備	松本
	・ 当地域の小中学校で観光の英会話授業を行い、外国人観光客に道案内等ができるようなインフラを整える。	大北
	・ 外国語（5ヶ国語以上）のガイドブックの作成	大北
	・ アジア系カードの利用環境整備	長野
	・ Wi-Fi等先端技術を活用した情報発信（インバウンド面での重要性）	長野
	・ インバウンド対策では、富山空港との連携が必要	北信
	・ ある外国人客が北信地域を訪れたときに、「探し求めていた日本がここにあった。」との発言があった。この地域はそのようなものを目指す必要がある	北信
広域観光の推進	・ 各エリアの特色を残しながら、広域的に連携	上伊那
	・ 南信州全体の観光を目指す。	上伊那
	・ 県全域を見ながら取組む広域観光。首都圏の窓口は諏訪。	上伊那

国内外からの誘客・ 交流の促進

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
広域観光 の推進	・ 広域的に連携した施策が必要	下伊那
	・ 南信地域は古くから東海三河との交流があるため、愛知・静岡に目を向けた観光振興を推進	下伊那
	・ 木曽、伊那を含めた広域連携	下伊那
	・ 観光してみたい！と思わせるような観光地のメニュー提案を南信州全体で行う。	下伊那
	・ 飯田下伊那全体として統一ある取り組みをして、点在する観光資源をつなぎ面として広げる。	下伊那
	・ 木曽ならではの、木曽川上下流交流などを民間レベルに広げていく。	木曽
	・ 隣接する温泉地との連携を図る。	木曽
	・ 観光地を点から線に、面に、更に広域連携が必要。強化する施策が必要	木曽
	・ 町村ごとの対応でなく、木曽が一体となって連携を図って誘客を進める必要がある。	木曽
	・ 木曽路一体となった観光誘致活動が必要	木曽
	・ 木曽はひとつ、地域全体でそういう気持ちを持つ。	木曽
	・ 地域はひとつであることをスローガンに、広い視野と知識を持っておもてなしをする。	木曽
	・ 広域での観光ビジョンを考えること。	大北
	・ 旅行商品づくりは、個別の市町村毎に作るのも重要だが、広域で行う必要がある。	北信
	・ 地方事務所単位の連携ばかりでなく、周りの地方事務所を巻き込んだ取組が必要である。	北信
	・ 広域連携のひとつの切り口として、花、人形、雪、スキーという資源の活用や、スノーモンキーやエコパークなど他と競合しないものを、どのような	北信
	・ 広域の中でアピールできるような商品開発をして、広域で売り出していく。	北信
	・ 市町村単位で考えると、特産品の連携といった話になるが、例えば「スキー」といった統一のテーマで拾い上げていってはどうか。	北信

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
計画の推進のために	・顧客満足度向上のため、情報通信技術を活用した観光実態調査（GPS機能調査、マーケティング調査）を実施	佐久
	・行政は明確なスローガンを示して民間活力を効果的に利用すべき。	諏訪
	・県職員も自分のお金で遊びに行かなければ遊び心が育たない。	上伊那
	・行政と民間が一緒になったシンクタンク作りが必要	下伊那
	・戦略的な予算の配布（効果のあるものへの重点的な投入）	下伊那
	・民間と行政の役割の明確化 ・経済活動に直接結びつけるのが民間、それを最大限支援していくのが行政	下伊那
	・観光をもっと戦略的に考え、方針を立てる。	下伊那
	・信州の北・中・南の観光施設（資源）を理解し、関東の玄関口、中京・関西からの玄関口を意識して明確な戦略を立てる。	下伊那
	・県の観光対策チームを見直し、官民一体の新しい観光対策室等を立ち上げる必要あり。	下伊那
	・長野県一体での考えは無理なので、地域に任せてはどうか。	下伊那
	・飯田下伊那の観光を推進するセクションを一本化し、観光振興を積極的に推進する組織、人材を確保すべき。	下伊那
	・飯伊の観光に関わる方が一同に会し、連携・情報共有を図る。	下伊那
	・各地域ごとに観光振興を図ることとして、それぞれの地域は緩やかな連携をしていく。	木曽
	・県全体で同じ事業目標を持つ必要はなく、各地域で特色を持って観光客の受け入れについて考える。	木曽
	・戦略と戦術の役割を県と市町村とで明確化	松本
	・行政中心から、民間も参加した広域連携の推進	松本
	・V字回復は難しいと思う。減少する原因が分析できないのであれば、現状維持が最大の特効薬であると思う。L字を目指すべきと考える。	大北
	・今回の会議を定例的に行っていくことが大切	大北
	・行政と住民との意見交換の場を各地域で行うこと。	大北
	・中長期展望を見据えることは必要ではあるが、本計画は5年で効果を上げられるものを中心に盛り込むべきではないか。	大北
	・観光地間の旅行者の流動を促すためには、地域間の連携、自治体の連携の重要性を確認すべき。	長野
	・勢いで行う施策ではなく、きちんとした分析に基づく施策展開をしてほしい。	長野
	・基本理念を明確にして、目標達成後の経済効果などを視覚化してわかりやすく示す。	長野
	・女性の目線を大切にしてほしい。	長野

新たな観光振興基本計画に係る地域懇談会での意見、提言等一覧表

区分	意見・提言等	地域
計画の推進のために	・計画の構成を次のように。①20年後の長野県観光の姿の明確化、②観光客ターゲットの明確化、③各地域の特徴と観光推進策、④県、市町村、観光事業者、住民の役割の明確化、⑤県の求める旅行の形態	長野
	・県外から観光客として入ってくる者が、長野県をどのようにとらえているのか、ひとつの要素として計画に入れ込む。	北信